

エイ・シュエ・シン・ウイン研究員（ミャンマー）



私は、福祉救援再定住省防災局で働いております、エイ・シュエ・シン・ウインと申します。ミャンマーは東アジア、東南アジア、南アジアの分岐点に位置しており、火災、地震、強風、サイクロン、高潮、地滑り、洪水、干ばつ、人為的な災害など多くの災害を経験しています。近年、落雷や河川の浸食などが発生している地域もあります。災害はどこの国にとっても、発展の過程における大きな課題です。

災害が次に発生する場所、時間を予期することが出来ないため、災害の影響を最初に受ける

のは、被災したコミュニティ、住民です。

そのため、コミュニティは災害に対する啓発を行い、災害に強い社会の育成を行わなければなりません。

ミャンマーでは、国家防災委員会の指導のもと、2030年までに達成すべき、災害リスク軽減のための行動計画が策定されました。その行動計画で定められた32の優先行動の実施に向けて、政府、開発事業者、民間、コミュニティが連携を強化する必要があります。

日本には、これらの災害管理における優良事例が多くあります。3か月の滞在期間で、日本の優良事例、特にコミュニティ防災について、学んでいきたいと考えております。アジア防災センターの客員研究員プログラムを終了し自国に戻るときには、日本で学んだことを活かして、ミャンマーの防災対策の推進に貢献できると確信しております。